更科源藏（さらしなげんぞう）
● 1904（明治37）年、弟子屈町熊牛原野（南弟子屈）に生まれ、1985（昭和60）年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印

原野紀行

第97回

「夏山」

『伝説のみずうみ』栗谷川健一 作

栗谷川健一とのコラボレーション カレンダー『北海道風物　詩と絵』

美術家の作品の心象を詩人が詩に表現する、あるいは、詩人の作品から心象を目で感じ取れるように、美術家が絵画や彫刻などの作品にすることがあります。

詩を更科、絵画を栗谷川健一で共同作業をした作品に「カレンダー」があります。

栗谷川健一は、映画宣伝の看板製作から本格的なデザインの勉強を始め、1936（昭和11）年、札幌鉄道局（当時）の観光ポスターに採用されたことをきっかけに、ポスター作家の道へと進みます。1950（昭和25）年第1回「さっぽろ雪まつり」のポスターなどを手がけたほか、日本観光ポスターコンクールや世界観光ポスターコンクールに作品を出品。1956（昭和31）年には、丸木舟を操るアイヌの青年と、湖に手をかざす乙女の姿をデザインした阿寒国立公園の観光ポスター「阿寒湖」が、世界観光ポスターコンクールで1位の栄冠に輝きます。その後も数々の賞を受け、北海道のグラフィックデザインの世界で第一人者となりました。

北海道の自然と風物をデザインする栗谷川と、更科の詩で表現する作品では、更科が「流氷」「早春」「夏山」「羊群」「収穫」「積雪」の6つの詩を寄せ、栗谷川が絵を描いた、1961（昭和36）年のカレンダー『北海道風物　詩と絵』があります。

夏山

ここはまだ
神々の姿がうつる水があり
神々の家が花で飾られる
若い魂があこがれるのは
高くて清らかな世界が
そのままそこにあるからだ

『北海道風物　詩と絵』から

本町では、1986（昭和61）年に完成した釧路圏摩周観光文化センターのホールに、栗谷川健一がデザインしたモザイク作品があります。摩周湖にまつわる伝説をモチーフにした『伝説のみずうみ』という作品で、訪れる人々の心を和ませています。

ESHIKAGA

図書館だより

中央2丁目4番1号
☎（よいほんいろいろ）482・1616

☆『おはなしはらっぱスペシャル』があるよ！

こども読書週間に合わせて、今年も読み聞かせ拡大版「おはなしはらっぱスペシャル」を開催します。絵本の読み聞かせのほか、スタンプカード作りも行いますので、ぜひ、いらしてくださいね。
▼日時／5月11日㈯　13時～14時
▼場所／図書館絵本コーナー

☆4月23日～5月12日は「第55回　こども読書週間」

標語【たくさん読んで　大きくなあれ】

4月23日は「子ども読書の日」と法律で定められ、この日から5月12日までが、毎年「こども読書週間」となっています。

国民の間に広く、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられたものです。

この日を中心に、学校・地域・家庭を通じて、子どもたちが「本って面白い！」と思える環境をつくっていきましょう。

新刊案内

おすすめの新刊

月に吠えるオオカミ

水越　武／著

写真家・水越武。
弟子屈町在住。
世界各地の自然を撮り続けた著者の写真をめぐるエッセー。
ヒマラヤ、穂高、屋久島、道東など…。
厳しい自然と深刻な環境問題への思い。

「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」　村上　春樹／著
「天翔（あまかけ）る」　村山　由佳／著
「桜ほうさら」　宮部みゆき／著
「犬から聞いた素敵（すてき）な話」　山口　花／著
「できる大人の話ネタ全書」　話題の達人倶楽部（くらぶ）／編
「人生はワンチャンス！」　水野　敬也／著
「未来は過去のなかにある」　澤地久枝ほか／著
「くわしく知りたい目の病気」　大鹿哲郎／総監修
「うーらのおうちカレー77変化」　庄司　智子／編
「いぬがかいたかったのね」　サトシン／作　細川貂々（てんてん）／絵

たくさんの新刊が皆さんをお待ちしています！

EMC通信 ～川湯の森から～

朝は霧に包まれ、昼は木漏れ日が射し、夕方には木々の間から見える空が赤く染まります。まるで、悠久な森の時間に迷い込んだかのように、幻想的で静かな空間を味わうことができる。それが、硫黄山の麓・川湯温泉に広がるアカエゾマツの森です。

アカエゾマツの森があなたを呼んでいます

EMCを起点としたこの森には、30分と60分で歩くことのできる二通りの周回コースがあります。川湯ヌプリスキー場跡地を見ることのできる「アカエゾマツの森コース」と、森の変化を楽しむことのできる「アカゲラの小径（こみち）コース」です。

キツツキの仲間やリス、キツネ、シカなどの動物たち。ゴゼンタチバナやアカエゾマツの幼木などの植物たち。阿寒国立公園川湯地域として、ここにしかない珍しい生態系が広がっています。

現在、森では、樹齢200年を超えたアカエゾマツの老木が広がり、吹雪や強風などによって毎年、何本もの木が倒れています。木が倒れた空間には新しい芽が次々と発芽し、人間とは違った時間軸の中で少しずつ変化していきます。そんな貴重な森の時間を、アカエゾマツと一緒に共有してみてください。新たな発見があるかもしれませんよ。

硫黄山の麓・川湯温泉に広がるアカエゾマツの森

体験しませんか ガイドウオーク

EMCの運営には、現在5人のスタッフが関わっていて、2～3人が常駐しています。EMCは自然へ誘う玄関口。センター裏に広がるアカエゾマツの森を、スタッフと一緒に歩いてみませんか？

花や植物が得意だったり、川湯育ちの目線だったり、スタッフによって案内の仕方が違います。何回来ても、アカエゾマツの森の中を楽しめると思います。ふと立ち寄られたときにでも、お気軽に受け付けカウンターへお声をかけてください。できる限り、対応させていただきます。

スタッフと一緒にいざアカエゾマツの森へ

※所要時間
約20分

川湯エコミュージアムセンター（EMC）☎483-4100
5月は8:00～17:00開館（無休）